（別紙様式２）

いじめ対策等生徒指導推進事業

事業実施報告書

【研究の要約】
当法人が関わってきた不登校の子どもたちの中には、学校に行けなくなったきっかけに、いじめが含まれていることも多いです。いじめを含めて様々な原因で学校に行けなくなっている子どもたちを支えるだけでなく、その保護者や家族への支援にも取り組むことで、いじめられる子どもがひとりで抱え込む状況を防ぐと共に、支援機関同士のネットワーク作りや一般市民の方も対象の講座を開催することで、いじめを含めた困難な状況を生み出しにくい地域づくりを目指します。

１　実施団体

（１）団体名　　特定非営利活動法人　レインボーハウス

（２）所在地　　和歌山市弘西２３２

（３）代表者役職・代表者氏名　　理事長　林堂　自代

２　事業実施期間　　事業委託を受けた日から平成２６年３月２０日

３　事業の実績

（１）選択テーマ

(1)いじめをはじめとする問題行動等や児童虐待等の未然防止、早期発見・早期対応、事後支援の取組

⑤いじめや暴力行為等の被害を受けた児童生徒や、問題や悩みを抱える児童生徒を支援・指導するための、相談体制整備等とその活用

⑥学校サポートチームや教育委員会、教育支援センター、ＮＰＯ法人、民間団体、児童相談所、福祉施設、病院、大学等地域の関係機関・団体からなるネットワークを活用した、問題を抱える児童生徒やいじめ等の被害を受けた児童生徒等及びその家庭への支援・指導

(2)不登校児童生徒等の学校復帰支援並びに社会的自立支援の取組

③引きこもり傾向にある不登校児童生徒に対する、訪問相談や訪問学習指導など、教育支援センターやＮＰＯ等民間団体による、学校復帰へとつなげる段階的、継続的支援・指導

(3)児童生徒の社会的素質・能力の育成等児童生徒の自発的・主体的な成長・発達を促す組織的取組

①児童生徒の社会的素質・能力の育成等児童生徒の自発的・主体的な成長・発達を促す組織的取組

②メンタルフレンド等の外部人材の活用やピアサポート等を通じた異年齢交流の取組等児童生徒の社会性を高める取組

（２）事業の内容

本人や家族が安心して過ごせるような、「居場所」となるような地域にしていくためには、「本人や家族の支援」と共に、地域で不登校やひきこもりに関わる支援機関や団体など「社会資源の連携」や、本

人や家族を取り巻く「周囲の理解」が不可欠だと考えています。
本人や家族を対象には「①不登校・ひきこもりの子どもや青年を持つ親同士の交流会」「③出張相談事業」「④小・中学生の居場所活動」を実施します。また「社会資源の連携」を更に深化することを目指し、地域の支援機関職員を対象に「⑤運営協議会」を開催します。さらに「周囲の理解」につなげるため、不登校・ひきこもりの子どもを持つ家族も含めた一般市民の方を対象に「②いじめ・不登校・ひきこもり学習交流会」を開催します。

（3）推進組織体制

各事業準備：4 月から開始。
①親同士の交流会：5 月より毎月開催。
②「いじめ・不登校・ひきこもり」学習交流会：7 月・9 月に開催。
③出張相談：5 月より随時実施。
④「小学生・中学生の居場所」開設：5 月より毎月水曜日に 1～2 回開設。
⑤運営協議会：5 月に第 1 回開催、2014 年 3 月に第 2 回開催。

（4）実施日程

①不登校・ひきこもりの子どもや青年を持つ親同士の交流会

参加対象者は、不登校・ひきこもりの小学生・中学生や十代後半までの青年を持つ家族で、参加者は主に母親である。また、祖母の参加が 11 回中 4 回（実数 3 人、延べ 4 人）、祖父の参加が 1 回（実数 1 人、延べ 1 人）あった。参加されている保護者の子どもは、小学 3 年生から二十歳代前半の年齢で、対象とする子どもの年齢は十代後半までとしているが、不登校やひきこもりの本人の兄弟姉妹の様子も交流会の中で話し合われている。参加者は子どもの様子や家族の辛い思いや困っていること等で話したい事だけ話し、気になっていることを他の参加者に問いかける方もおられる。話したくない方が、話すことを強要されることはない。つらさのあまり泣いて言葉にならない方もおられるが、気持ちを共有できる場で、安心して感情を出せることが大切であると考える。

十代後半から二十歳代後半の不登校を経験した子どもを持つ保護者 4 名が、外部協力スタッフとして関わる。当団体事務局長が司会を担当する(10 月は理事長)。外部協力スタッフは、参加者の話を聞く中で自分の体験や考え・思いを振り返り、参加者の思いに共感することがあったり、学校に行っていなかった頃やあるいは現在の我が子の様子を話したりする。また、外部協力スタッフには、毎月の発送作業に協力して頂いた(毎回 1～4 名)。

終了時刻が来ると一旦終了し、話し足りない方にはその後も残って自由に交流して頂いている。

申し込みをするだけでも気持ちの負担となることを考慮して、申込は不要とし、当日の直前に参加を決められた方でも参加できるようにしている。交流会の途中からの参加でも、途中までの参加でもできるようにしている。

1）5 月 10 日（金）18：30～22：20／ビッグ愛会議室（A）　参加者：7 人（初参加 2 人）
2）6 月 7 日（金）18：30～23：00／レインボーハウス　参加者：7 人（初参加 1 人）
3）7 月 7 日（日）13：30～18：30／レインボーハウス　参加者：6 人（初参加 1 人）
4）8 月 2 日（金）18：30～22：30／ビッグ愛会議室（B）　参加者：6 人
5）9 月 14 日（土）10：00～13：40／河北コミュニティセンター　参加者：5 人
6）10 月 11 日（金）18：30～20：50／ビッグ愛会議室（B）　参加者：8 人
7）11 月 9 日（土）18：30～22：30／レインボーハウス　参加者：8 人（初参加 1 人）

8）12 月 7 日（土）13：30～18：30／レインボーハウス　　参加者：7 人（初参加 1 人）
9）1 月 26 日（日）13：30～17：30／ビッグ愛会議室（B）　　参加者：7 人
10) 2 月 8 日（土）18：30～23：30／レインボーハウス　　参加者：5 人
11) 3 月 9 日（日）13：30～17：20／ビッグ愛会議室（B）　　参加者：8 人（初参加 2 人）

②一般市民向け「いじめ・不登校・ひきこもり学習交流会」

前半は講師による問題提起（1 時間 15 分）、全体による質疑応答(約 30 分)を行った。後半の分科会には講師にも入って頂き、第 1 回については家族同士の 2 グループ、市民や支援者が 1 グループで、第 2 回については後半に残られた参加者が 6 人だったので 1 グループで、外部協力スタッフ 4 名を配置して分科会を行った(1.5～2 時間)。

「学習交流会」は、いじめや不登校・ひきこもりに関わる専門家や支援者の講演に関心を持つ不登校やひきこもりの子どもを持つ家族を含めた一般市民を対象に、外部へも広く知らせる努力をして開催している。第 1 回には、家族以外にもスクールカウンセラーや教員、行政機関職員等の支援者も参加して下さった（参加カード等でわかっているのは 6 名）。「出張相談」や「親の交流会」を活用している方も参加して下さった。初めて参加された方も 6 名おられた。

外部協力スタッフ 4 名・当団体理事長・施設長・事務局長・事業実施事務員は、学習交流会準備、当日の準備や受付、円滑な会の進行、会終了後の後片付け等を担当した。

1）「子どもの生活世界の変化に大人はどう対応するか ―『いじめ』『不登校』の出口を考える―」

講　師：松浦善満 氏（和歌山大学 教育学部 教授）
と　き：7 月 27 日（土）13：20～17：30
会　場：ビッグ愛 9 階会議室（A）
参加者：24 人

2）「がんばっていない子どもはいない がんばっていない親もいない
～不登校に関わるすべての人に伝えたいこと～」

講　師：土井広行（NPO 法人レインボーハウス 施設長）
と　き：9 月 28 日（土）13：30～18：00
会　場：和歌山 YMCA 3 階 301 教室
参加者：14 人

③出張相談

1）不登校・ひきこもりの本人や家族から希望を募り、自宅や希望の場所で家族の話を聴いたり、本人から要望があれば、本人と会って交流したりした。
2）原則として、水曜日(11:00～18:00)、その他の平日の夜(16:30～20:30)に、予約制で一日 1 件実施した。
3）訪問時間は、本人や家族の状況や希望に応じて、無理のないように 60～90 分を目安とした。
4）原則として 2 人一組で訪問するが、1 人の訪問を希望する場合も対応した。同時に、2 人の母親に面談したこともあった。
5）本人が他人の来訪を嫌がる場合や、家族から要望があれば、自宅以外で家族との面談をした。
6）和歌山県全域、大阪府南部の家族を対象とし、広く募集をかけたが、活用されたのは、和歌山県内だけであった。和歌山市以外では、橋本市、紀の川市、御坊市から要望があった。

実施期間：平成 25 年 5 月 17 日～平成 26 年 3 月 20 日
実施場所：対象家庭の自宅、祖父母宅、レインボーハウス施設、自宅周辺の公共施設、民間施設。
実施回数：23 回
対象家庭数：12 家族
対象家庭の子どもの年齢：小学校 6 年生～40 歳代前半
利用回数は、1 回：9 家族、2 回：1 家族、3 回：1 家族、9 回：1 家族。
この内、母親が 10 人（延べ 21 回）、祖父と祖母が 2 人一緒に相談したのが 1 回、本人が 3 人（2 人が延べ 2 回、1 人が延べ 9 回）であり、本人と母親を一緒に対応したのが 2 家族、本人だけで対応したのも 1 家族あった。

④「小学生・中学生の居場所」の開設

◆2013 年 5 月から 2014 年 3 月の原則として毎月 1 ～2 回、水曜日の 10:00～14:00 にレインボーハウスで開設した。
◆対象は、小学生と中学生。
◆スタッフは、男女 1 名ずつの計 2 名。
◆終了後の 30 分間、スタッフ 2 名で、気付いたことや反省点を話し合う「振り返り」を実施した。
◆9 月 14 日（土）～15 日（日）は、レインボーハウスに宿泊する「お泊り会」も開催した。

2013 年
１）　５月１５日（水）　参加者２名
２）　６月１２日（水）　参加者２名
３）　７月１７日（水）　参加者２名（初参加１名含む）
４）　９月　４日（水）　参加者１名
５）　９月１４日（土）　参加者２名　（お泊り会）
６）　９月１５日（日）　参加者２名　（お泊り会）
７）１０月　２日（水）　参加者１名
８）１０月２３日（水）　参加者１名
９）１１月２０日（水）　参加者２名
１０）１１月２７日（水）　参加者１名
１１）１２月１８日（水）　参加者２名

2014 年
１２）　１月１５日（水）　参加者１名
１３）　１月２９日（水）　参加者０名
１４）　２月　５日（水）　参加者０名
１５）　２月１９日（水）　参加者０名
１６）　３月１２日（水）　参加者１名

⑤運営協議会

第 1 回　平成 25 年 5 月 31 日（土）13：30～16：30／レインボーハウス
参加者：10 人（民間団体役員 5 名。公的機関職員 1 名。民間団体職員 2 名、サポート校職員 1 名。事業実施事務員。当団体より、理事長、施設長、事務局長の 3 名。）
今年度は、継続した取り組みとなる事業（①親同士の交流会、②「いじめ・不登校・ひきこもり」学習交流会、③出張相談、⑤運営協議会）に加えて、新たな取り組みとなる④「小学生・中学生の居場所」

を利用者の負担なく開設することができたことを報告し、参加者の負担がない「③出張相談」「④小学生・中学生の居場所」をさらに広報していくよう助言を頂いた。

地域で「不登校」や「ひきこもり」支援に関わる行政機関、民間団体やサポート校の担当者から、現在の不登校やひきこもりの子どもや若者、その家族への支援の状況が出された。

第 2 回　平成 26 年 3 月 14 日（金）13：30～16：30／レインボーハウス

参加者：14 人(民間団体役員 5 名。公的機関職員 3 名、民間団体職員 1 名、サポート校職員 1 名。事業実施事務員。当団体より、理事長、施設長、事務局長の 3 名)

前半は、当団体事業実施担当者（施設長・事務局長）より報告を行う。その後、事業内容、事業の方針等についての質問を受け付けた。後半は、参加者より、自己紹介や各団体の活動、前半の報告に関する質問、いじめや不登校やひきこもりの現状、今後の展望や取組等について意見が交わされた。

上記の①～④の事業開催･広報のため､行事チラシを平成 25 年 4 月から平成 26 年 2 月末までの毎月、約 60 ヶ所の個人、118 ヶ所（平成 25 年 4 月時点）～137 ヶ所(平成 26 年 2 月末時点)の公的機関や民間団体・支援者等、25 ヶ所の報道機関に送付・配布した。広報にご協力頂いている公的機関や民間団体には、毎回①～④のチラシを 10 枚ずつ送付し、来所される方への広報を依頼した。また、ご協力頂いている和歌山県内、大阪府内の機関や団体が主催されての行事開催の際には広報の協力をお願いし、配布の資料に入れて頂いたり、自由に持ち帰ることができる資料配布のスペースに置いて頂いたりして行事チラシを配布して頂いた。

最近 5 年間の学習交流会・親同士の交流会の参加者や出張相談の活用者、今回の事業についての問い合わせを頂いた方等の 58 ヶ所（平成 25 年 4 月末時点）～75 ヶ所(平成 26 年 2 月末時点)に、5 月、7 月、2 月に告知チラシを送付した。最近 2 年間の事業を活用して下さった方や今年度問い合わせを頂いた方の約 40 名については、告知チラシを 6 月、8 月、10 月にも送付した。

7 月、和歌山県内の小中学校約 210 校と、和歌山県内の公的機関や民間団体 127 ヶ所、大阪府泉南地域 68 ヶ所に行事チラシを送付した。9 月には、前記の機関や団体に加えて、大阪府南部の小中学校 150 ヶ所にも行事チラシを送付し、広報をお願いした。

⑤運営協議会開催前には、県内の約 70 ヶ所の公的機関や民間団体に開催を告知し、参加の要請をした。

また、事業実施のために、事業実施事務員 1 名が、延べ 88 日（477 時間)、チラシ作成、印刷、発送、会計、事業アンケートの集計・入力等を担当した。

（5）事業の成果

①事業により得られた成果

「①親同士の交流会」は、当法人が子どもの居場所「レインボーハウス」を開所した 1997 年から行っているので、今も継続して参加して下さる保護者の当時小学生や中学生であった子どもは、今では専門学校生や大学生、社会人となっています。交流の中では、今しんどい思いをしている子どもや青年の様子や保護者の思いが率直に語られ、いじめから不登校になった子どもの保護者は、辛い思いをとにかく吐き出し、子どものしんどさを理解しようと思い直しておられるようです。また、かつては学校に行けなくてしんどい思いをしていた子どもが、現在では表面的には元気に、あるいは苦労しながら、学生生活や社会生活を送っている様子も保護者からの話に出されます。たとえ復学しても、苦手な場面で躓いていたり、節目の時期で悩んでいたり、またその苦手な場面やしんどい時期をやり過ごせるようになっ

たり乗り越えたり‥と、不登校やひきこもりの子どもや青年たちの「今」と「その後」について語り合われています。初めて参加された保護者や、不登校や閉じこもりがちになって日の浅い子どもや青年の保護者が「安心」や「見通し」を得ることもあるようです。我が子の「今」の状態が良くても悪くても参加でき、家族が、我が子の不登校やひきこもりを自分自身の振り返りや生き方への問いかけと考え、望み必要とすればいつまでも学び合える場であることが存在意義になっています。

また、3 月の親同士の交流会では、和歌山県外の「親の会」主宰者の方も参加されました。交流会終了後に「親の会」の運営についても話し合うことになり、県外の「親の会」の方と交流する機会にもなりました。

事業後のアンケートから

【「親同士の交流会」参加の目的】

●家に閉じこもりがちの子どもがいて、息がつまりそうだったので、参加してみました。
　参考になる情報やヒントがあれば、と思いました。

●自分自身、子どもの不登校についていろいろ悩んでいることがあるので、他の親ごさんのアドバイスなどを聞きたいと思いました。

●久々に近況報告と、他の親の方のお話を聞き、自分の経験や現在の悩みや困りごとなど話しながら(自分の腑に落ちる）自分に改めて問いただすために参加させていただいています。

●子が不登校になり、どのように対応して行けばよいか悩んでおり、経験者のお母様方に教えて頂きたいことがたくさんあったため。

●不登校に子供がなって、相談する機関に色々行きましたが、子供を助けてほしい気持ちと自分も誰かに助けてほしくて、親同士の交流会があるのを知って参加したいと思いました。

●日々の気持ちのざわつきやモヤモヤを誰かに聞いてもらうため。

●子供が不登校になり、カウンセラーの方に相談などし ADHD では？と言われ、病院などに行くも、途中で子どもが行かなくなり･･･色々調べたり･･･親の私自身がどうしてよいかわからず‥すがる思いで参加させて頂きました。

【「親同士の交流会」への希望】

●6 人くらいまでの少人数だと話しやすい。今後も親が、思うことを何でも話せる場所であって欲しいと思います。

●子どもの年齢別

●自分の悩みを否定されることなく言いっぱなし聞きっぱなしの交流会が何にも勝る？優る？支援になると思っています。ついこの前まで自分が悩みを聞いてもらっている方だったのに、今回は自分の経験が誰かの役立ってるとおっしゃっていた方もおられました。

●地域（小規模）ごと、または年齢別（子供の）集まり。

●今と同じで、お願いします。

●しゃべりたい事を、しゃべりたい分だけ、しゃべりたい時に（自分のタイミングで）表に出せる今のままの交流会で良いと思います。

【「親同士の交流会」全体を通じての意見・感想】

●子どもが、小学生くらいまでと、中学生以降とでは、親の悩みや関心が少し違う面があるかもと‥という気もします。
　参加人数の多少にかかわらず、毎月開かれていることが有難い、というか心強いです。

●他の人の話を聞くことで、自分のしんどい気持ちが少し楽になる感じがします。
　子どものことで「一喜一憂」しがちですが、少し余裕をもって向き合うことできるのではと思えました。

現在悩んでいる多くの親の方に、ぜひ参加してほしいと思います。

●(参加の目的や希望にも共通することですが)子ども達の体調によって出かけたくても出かけられない時があります。

“学校に行かない”たったそれだけ【→理解できるまでの支援はたくさん必要です】の事で、社会的に孤立してしまう時期があります。そんな時、誰にも否定されない場があるのはどんなに心強いでしょうか。心の中の問題は目に見えないだけにむずかしい、参加者が多い少ないという問題ではなく、参加したくてもできない時のほうがたぶん多いのです。誰も参加者がいなかったとしても、そこに行けばたった１人でも自分の思いを受けてくれる誰かがいるとか、どんな所かわからないけれども“親同士”の交流会ならわかってくれる人がいるかもしれないなど沢山の思い悩みを持って参加していると思います。参加人数だけではなく、場があることが安心にもつながる事を強く報告書の中で伝えていただきたいです。

交流会は、悩みだけでなく喜びも共にできる場です。誰かが進学をした、学校へ行けるようになったなどのお話は、立場やその時期にもよるでしょうが、「羨ましいなぁ」とか「いいなぁ。いつになったらウチの子は」と思う反面、希望にもなります。

親子供々の辛さを知っているからこその喜びもあります。たくさんの交流の場を作って下さい。

●不登校の子に対し、また学校とつきあいに対し、現実的な答えを頂くことができ、たいへん参考になりました。相談員や子供が学校に行けているお母さんでは、相談しても答えてもらえない内容も的確に教えて頂けて、私の勇気にもつながりました。なくてはならない会です。

●いつもレインボーハウスの○○（司会）さんをはじめ親の会の皆さまに感謝しております。親同士の交流会に参加させて頂きまして、自分が救われました。自分のつらい気持ち、話をゆっくり聞いて下さって共感して頂けたこと、とてもうれしかったです。他の皆さんの話も聞かせて頂き、参考になったり、はげまされたり、自分自身自信を持って不登校の息子にむきあえること出来ました。ありがとうございます。

●子供に関する悩みを語り合うだけでなく、もともと弱音を出せる間柄なので、親の介護の悩みなども気兼ねなく話すことができて、ますます私にとって、なくてはならない「交流の場」になっています。

●話せたり、聞いてもらえたりするだけで楽になる。専門家に頼るのではなく、同じような親の体験や思いが聞きたいし、参考になる。

●顔見知りの方にお会い出来てほっとし、他の人には言いづらい「気持ち」の話を聞いてもらえて、元気が出ました。

いつ終るか解らないこの生活、つないでいける希望の場と感じます。先輩お母さんからの情報、大変ありがたいです。

●1度しか参加させてもらっていないのですが･･･

とても心が楽になりました。誰に相談しても理解してもらえず分かってももらえない･･･どこに相談してよいかもわからず･･･　　私自身、精神的にまいっていました。

とにかく、このままではダメだ！とずっと思ってましたが、このまま見守るだけで良いとわかり、どんなに心が楽になった事か･･･　本当にありがとうございました。

行かせてもらったのは、1年程前だったのですが、子供(中2)は中1の2学期から不登校であばれたり･･大変でしたが、1ヵ月程前から中3になったら学校へ行くと言ってます!!

私は正直、交流会に行かせてもらってから、無理して学校に行かなくても良いと思ってたので、高校位から行ければ良いな！と思ってたので、ビックリでした。4月から本当に行くのか、どうなるかわかりませんが、やっぱり無理なら行かなくても良いです。

あばれていた日々から思うと、だいぶ進歩です。行こうと思う気持ちになれた事が！

多分、私の心が楽になった事で、不登校を認めてあげれました。
あの日、参加させて頂けて良かったです。本当にありがとうございます。

「②学習交流会」では、我が子のいじめや不登校・ひきこもりで辛い思いをしている家族と不登校やひきこもりに関わる公的なあるいは民間の支援者が、同じ講演を聴いて意見を出しそれを聞き考え合い、様々な立場の支援者が意見を交わすきっかけになる場面を設けることができました。困っておられる保護者が支援者とつながるきっかけともなりました。また、初めて参加された方が後半の「子どもの年齢別親同士の分科会」にも参加され、その後の「①親同士の交流会」へつながった方もありました。

1）「子どもの生活世界の変化に大人はどう対応するか ―『いじめ』『不登校』の出口を考える―」

当日のアンケートから

- 「聴く」、聞くとちがって、相手を感じて受けとめる余裕は、自分自身にもないとできないかな、何か必要かと思う。
- 用事があって、講演のみで失礼します。
  溜めのある学校・家庭・生徒･･･を築いていくには、どうしていけばいいのでしょうか。先生達が、ゆとりをもって、やさしく生徒を見ていってほしいと思います。
  「出口」は、学校の外に見えてきているように感じるのですが･･･。
- 松浦先生のかた苦しくないお話は、心に入りやすかったです。
  わかりやすい内容と言葉で、しかも中身の濃いものでした。もっと時間があれば、聴いていたかったです。
- 学校内におけるいじめ、不登校に関して関連性は理解できましたが、私は最近の学校給食「食育」の面から改善する必要性がありませんか。最近　キレる、逆上（原文：逆情）する　この背景には、朝食抜きファーストフードを食すること。
  長野県上田市の取り組み改善した事も考えてみたいと思います。
- 私としては、やっぱり大津のいじめの話がもっと聴きたかったです。私は、よそのクラスから様子を見に来ていた、実際に手を出さなかった（と松浦先生はおっしゃっておられたように聞きました）D君のことが気になりました。
  また、A君はもちろん命を絶つほど追いつめられていたのですが、B君のしんどさも伝わってきました。私としては、どの子がA君になっても、B君になってもおかしくないと思います。

2）「がんばっていない子どもはいない がんばっていない親もいない
～不登校に関わるすべての人に伝えたいこと～」

当日のアンケートから

- 今日の講演のタイトルがいいなあと思っていましたが、私も日々“がんばっていない子どもはいない、がんばっていない親もいない”と感じています。

私は直接、不登校・ひきこもりの状態にある子どもと関わっているわけではありませんが、たくさんの子どもと関わっていると、今日のお話の中で出てきた内容と重なることがありました。また最近では、子どもの保護者がひきこもりの状態にある人もいて、そのことを思い浮かべながら聞いていました。
私自身も知っていると安心することは多いので、この講演も含め、またお話を聴かせていただければうれしいです。ありがとうございました。

事業後のアンケートから

【「学習交流会」参加の目的】
● 別室登校をしたり、運動会前で迷うことが多くてしんどかったので土井さんのお話を聞きたかった。
【後半の親同士の交流会について】
● 話を聞いて頂いたり、他の方の経験をきいたり、アドバイス頂いたことで気持ちに余裕ができました。
どうしたらいいかわからない毎日ですが、頭がいっぱいになってきたときは分科会でのことを思いだし自分の気分を落ちつけるようしています。ありがとうございました。

「③出張相談」では、新たに活用して下さる保護者の中には「こんなことまで話してよいのか‥」と、涙ながらに話して下さる方もおられます。「なぜ我が子がひきこもるのか理解できない」「私の子育てが悪かったのか」「いつになったらこの苦しみから解放されるのか？」と不安の思いを語っていた保護者が、「子どもの今の状態を受け入れようと思う」「今のままでいいんだ」と自分に言い聞かすように話すようになり、つい最近になって「会話や食事ができるようになった」と、普通に学校に行っていたら当たり前で喜び合えなかったような小さな出来事を、とても嬉しそうに連絡して下さいました。

また、ご自宅を訪問させて頂く中で、本人が訪問スタッフにテレビゲームを教えてくれたり、自作の工作を見せてくれて、それを持って外に出てスタッフと遊んだり、キャッチボールをしたりしています。

いくつかの公的機関や民間相談機関にチラシを置かせて頂いていることで、来談されている保護者の方に「①親同士の交流会」「②学習交流会」「③出張相談」を紹介して下さったり、チラシを目にした保護者の方が当法人に問い合わせの電話をして下さったりすることが、時々あります。お電話をきっかけに、親の交流会や学習交流会、出張相談を活用して下さるようになった保護者の方も、多数おられます。「③出張相談」を機会に、「①親同士の交流会」や「②学習交流会」を利用して下さる方もおられます。

事業後のアンケートより

【「出張相談」を活用した目的】
●家にこもりがちなので、家族以外の人と接する機会がほしいなぁと思ったため。
【「出張相談」への希望】
●今まで通り、子供の気持ちによりそって見守ってくれると嬉しいです。
【「出張相談」全体を通じての意見・感想】
●「今度いつ来てくれるの？」と毎月楽しみにしています。
自分から人に会いたい気持ちを持てるってすばらしいと思います。
毎日家で一緒にいるとどうしても「・・しなさい」と命令口調になり、自信や意欲をなくさせていたのかも。
新年度も来てくれたらいいなぁ～と思いつつ。
サポートしてくれる方々も家事や子育て、介護など忙しいと思うので、無理のない範囲で続けてもらえたらいいなぁと思います。
●本人が居ない方が私が話やすいと思ったので、家以外の場所を希望しましたが、自宅で私が相談させてもらっても良かったのかなと思いました。
その方が、本人が自分で話したり、他の人に会ってみたりするかどうか考えやすいかなと思いました。
ありがとうございました。

「①親同士の交流会」「②学習交流会」「③出張相談」では、終了予定時刻になって一度終了した後も、まだ話し足らない様子でもう少し話してから帰られることもしばしばです。普段なかなか話せないこと

も話せるこの場が、貴重な機会になっていることを実感しています。

「④小学生・中学生の居場所」は、青年も来てくれている他のレインボーハウスの日には無理にテンションを上げて明るく振舞っている子どもも、ゆっくり自分のペースで過ごせている様子です。月に 1 回会える女性スタッフに見せたい物をたくさん持って来て、残り時間を時計で見ながら、全部見せようと時間を惜しむように過ごしている子どももいたことが、印象的でした。終了後にスタッフ同士で振り返りも行うことで、様々な視点から子どもたちのことを考え、理解が深められている手応えを感じています。

今年度は、社会資源に乏しい山間部を数多く抱える和歌山県南部への広報にも力を入れました。毎月発行するチラシを置いて頂ける和歌山県南部（田辺市）の公的機関・施設は、昨年度までは 2 ヶ所でしたが、今年度は 7 ヶ所に置いて頂けるようになりました。現在困難を抱えて悩んでいる方に、この事業を知って頂き、活用して頂くきっかけになればと期待しています。

（2）成果の普及に関する取組

本事業によって得られた成果等は、ホームページへの掲載や、報告書を当団体にご協力を頂いている公的機関や民間団体、いじめ・不登校・ひきこもりに関わっておられる方等に送付し、普及・啓発します。

（6）今後の課題

今年度の事業は、不登校やひきこもりになって困っている子どもや青年、その家族にとって直接的に必要な支援であり、子どもや青年、その家族が安心して生活できる地域社会に近づくためにも、単年度で終わってそれで大丈夫という支援活動ではありません。今年度の活動に取り組む中で、昨年度までの当法人の活動ではつながれなかった、たくさんの悩まれている保護者の方・ご家族との出会いもありましたが、反面、大変困っておられるのに、未だに子どもや青年、その家族が孤立していたり、行き詰っていたりするケースを依然として多く耳にするという状況があります。3 月になってからの出張相談については、5 件中新たな申込みによる相談は 4 件でした。

私共がお話を伺った保護者の方・ご家族より、感謝の声や「来年度も継続して欲しい」とのご意見も頂戴する中で、今年度の事業活動に対する必要性を痛感し、継続して行いたいとの思いも強く感じています。また事業を継続していくためには、活動に対する裏付けとなる活動費を保障していく必要があると考えます。

「③出張相談」については、平成 25 年度までも保護者・家族が主対象の取り組みということで実施してきましたが、これまでに利用された保護者の中には、子ども・青年本人対象の取り組みとして利用される方もおられました。保護者の方が、本人と第三者の直接的な関わりを求める思いは理解できますが、「③出張相談」の主対象に子ども・青年を含めていないことには理由があります。それは、不登校・ひきこもりの子ども・本人にとって、家は「居られる」唯一の場所であることが多いので、その家に第三者が入ることで「居づらく」してしまうことは、子ども・青年本人を追い込むことにつながるため、慎重にならなければならないと考えているからです。子ども・青年本人を主対象から外すことで、当法人スタッフが家を訪問した際にも、家にいる子ども・青年本人が「会わなければならない」と考えてしまうプレッシャーを少しは和らげることにつながればと期待しています。また、そのプレッシャーが比較的少ない状況で、子ども・青年本人が自分の心や身体と相談しながら、本人のタイミングで第三者に会うか会わないかを自分で決めていくことを尊重する取り組みこそが、消極的に過ぎるように見えるか

もしれませんが、遅々とはしていても着実な歩みにつながるのではないかと考えています。この当法人の考えを保護者や家族の方により一層ご理解頂くために、新年度も事業を実施する際にはチラシに記載する説明も見直し、更なる広報に努めます。

「③出張相談」は交通が不便な地域にも当法人スタッフが行かせて頂けるので、他の社会資源も乏しい和歌山県南部や山間部の地域にも広報する機会・場面を増やし、活用して頂ける人を広げていきたいと考えています。

「③出張相談」「④小学生・中学生の居場所」については、参加費などの負担なしに来て頂けることを更に多くの方に知って頂くため、今年度にも増して和歌山県内や大阪府泉南地域の小学校や中学校、協力して頂いている公的機関や民間団体にもより一層広くお知らせしたいと考えています。

また、１人の本人・家族や一つの家庭への支援について、地域で活動する他の支援機関・団体と意見交換できるような場も設けられたらと考えています。

３　文部科学省との連絡担当者

所属・役職　　事務局長

氏名　　大西博子

電話番号・ＦＡＸ番号　０７３－４６２－３０６０

Ｅ－ｍａｉｌアドレス　raibowh@naxnet.or.jp